

【世界史 B】 大学入学共通テスト試行調査(プレテスト)所見 (平成 29 年 11 月実施)

教材研究センター地歴公民研究室

◎ 試験概要 ◎

配 点 : 100 点

試験時間: 60 分

◎ 出題における特徴的な点 ◎

- 既存のセンター試験と比べると出題形式が大きく変化した。単純な正誤判定が減少し、正誤の問い方が多様となった。
- 正解を2つ選ばせる問題や、正解が連動する問題が出題された。
- 資料(歴史史料・系図等)・グラフ・図版(絵画・写真)を使った問題が激増した。系図はおそらく既存の試験で出題が無い。
- 既存の試験には存在しなかった、資料文を読ませて、その読解が解答に影響する問題が登場した。
- 最終的な正解の特定には知識が必要なものがほとんどであり、必要な知識の水準は既存の試験並。この点で、日本史の試行調査(プレテスト)に比べると、保守的なつくりとなっている。

◎ 大問ごとの分析 ◎ (注目すべき問題は冒頭に☆、平凡であったり、やや新しい程度の問題には触れない)

第1問(志賀島の金印・中世ヨーロッパ史)

A は志賀島の金印についての生徒のパネル発表をリード文としたもの。通常なら日本史の範囲と考える志賀島の金印を用い、かつ既存の試験には無かった生徒のパネル発表をリード文とした点は極めて新しい。

☆問3は歴史学的な推測を働かせる力を測ろうとする新傾向の問題。

B は中世ヨーロッパの歴史書を引用したリード文で、これも既存の試験にはない。

☆問5は史料文の内容を示す絵画図版を選択する問題で、史料文と図版の双方の内容を読解する必要がある。

☆問6は史料文中の空欄穴埋めで、史料文の読解と、歴史上の人物の生存年代・特徴についての知識が必要。

第2問(トルコ系民族の移動・中国の人口の推移)

A はユーラシアの地図を用いた生徒の班別学習をリード文としたもので、これも既存の試験にはない。問題は地図や統計データを採用しているものの、内容はややひねった正誤判定というところで、それほど新鮮さはない。

B は中国の人口の推計値を示した折れ線グラフをリード文としたもので、これも既存の試験にはない。ただし、問題は比較的既存の試験に近く、問4～6ともに、少し工夫した問い方にはなっているものの、通常の正誤判定や年代の特定問題である。

第3問(世界史上の民衆反乱)

A のリード文は既存の試験のような文章。

☆問2は3つの図版(絵画)と簡潔な説明文が並んでおり、年代の古いものから順番に並べる問題。歴史用語なしに年代を特定できるかを試している点で新傾向と言える。

B は3つの史料文をリード文としており、既存の試験にはない形式。

☆問6は史料文3つの共通点を見出して、それに合致する文言を選択する問題。読解力と知識の両方を要する新しい問題。

第4問(王朝の系図・19 世紀イギリスの家庭)

A は4つの系図と、それに関する生徒の班別学習をリード文としたもの。

☆問1は系図の読解問題で、解答に世界史の知識が不要という点で新しいが、それがよいことかは判断の分かれるところ。

B は絵画と統計データを示しつつ、これを題材にした高校の授業中の会話という設定のリード文で、これも今までにない。

☆問4は統計データからリード文中の空欄が「ジャガイモ」であることを特定させつつ、それに関する正誤問題。

☆問6は絵画の読解から、当時の社会状況と家族観を推察する問題。絵画の読解というだけでなく、ジェンダーの歴史にかかわる点でも新しい。

第5問(第一次世界大戦時のドイツ、中東に関する史料)

A は史料文が3つ並び、それを読んだ高校生の会話という設定のリード文。

☆問1はリード文の空欄穴埋め問題で、世界史の知識が無くてもある程度正解を推測で当てることが可能。

B も史料文が2つ並ぶ。2つとも外交文書。問5は平凡な知識問題。

☆問4は正解が連動する問題。必要な能力自体は通常の世界史の知識である。

第6問(近代オリンピックに関連する歴史)

近代オリンピックに関するグラフがリード文。問1・問4・問5・問6は平凡な正誤判定。問3は図版の選択。

☆問2は正解を2つ選ばせる問題。正解のうち1つは世界史の知識、もう1つは推測を働かせる正解となっている点でおもしろい。